

## ○共謀罪法案、強行採決の愚

「共謀罪」法案が強行採決されました。共謀という言葉や組織的犯罪の定義が、大臣答弁で二転三転した挙句、曖昧なままです。これでは、捜査機関が共謀だと言えば、恣意的に犯罪がでっち上げられる可能性が残ります。その曖昧な犯罪を捜査するために、通信の傍受をはじめ、いわれなきプライバシーの侵害を許し、更なる監視社会への道を開く可能性があります。一方で、この法案がどこまで本当にテロ犯罪の防止になるのか、専門家からは疑問符が付き、国際テロ防止条約ということに対しても、「条約を締結するためには共謀罪法案が必要だ」という政府の説明の根拠が崩れています。こうした点について、国連人権委員会の特別報告者や海外メディアから、日本政府に対して懸念や批判が出ています。焦った政府は、今回も強行採決という暴挙に出ました。

特定秘密保護法、安全保障法制に続く今回の共謀罪。この先には、憲法9条改正を2020年までにやると、安倍総理の意思表示がありました。国家権力の強化を前面に押し出した安倍政権の危険な道筋がはっきりしてきました。現行の私たちの憲法の精神、国民主権、人権、平和という原点を基本に、国家主義的で反動政治の安倍政権に対し、リベラル中道の軸をしっかりと示し、対峙していきます。

## ○女性の政治参画推進法案、難渋

女性の政治参画を推進する議員立法の成立が、加計学園問題で立ち往生しました。国会では、政府から提出される法案（閣法）が優先して議論され、採決に付されます。議員提出の法案（議法）は、閣法がすべて処理され、余剰時間があれば、すべての党が賛成した案件を優先して審議に付されるという暗黙のルールのもとに運営されています。女性の政治参画推進法案は、すべての党派で賛成を取り付けて国会に提出済みでしたが、法案の審議の場である内閣委員会が、閣法を処理し終わった後、開催されなくなりました。文部科学委員会と同じく、内閣委員会でも森友や加計学園問題が話題に上ることを、官邸は回避したいということです。

他にも、今国会では、全党賛成にも関わらず成立しなかった法案が多数あります。国会運営とは、難しいものですが、あきらめずに法案の成立に向けて努力します。

## ○憲法審査会緊迫、9条争点に

憲法審査会の運営が緊迫してきました。安倍総理が2020年までに9条を改正し、自衛隊を軍隊として明記したいと言いついたからです。これを受けて自民党は、今年中に原案をまとめる作業に入りました。

憲法審査会ではこれまで、野党も含めた話し合いの中で、どの条項を改正する必要があるかということと、具体的な原案の作成自体も、審査会での各党議論を通じて与野党協力して作ることが前提になっています。ところが、今回の総理の意思表示は、「自民党が原案を作って、審査会や本会議の3分の2以上の多数決で国会を通していくぞ」という宣言にも受け取れます。

私は、自衛隊を軍隊として明記することより、自衛隊をどのような状況の中でどのように使うか、その限界を憲法で規定することの方が大事だと思っています。日本が平和国家として歩んできた、その基本は専守防衛です。これを憲法の規範とすることを求めています。

自民党が下野したときに安倍総理も中心になって作った自民党憲法草案を読む限り、今回の総理の意思表示は、自衛隊を軍隊として定義するだけとどまらず、専守防衛規範も否定され、集団的自衛権の容認で、例えば米国と一緒に地球の果てまで行って戦争というようなことになりかねません。

## ○伊賀、名張に行きましょう

新しく三重2区に加わった伊賀市や名張市に挨拶に伺っています。上野城、近代モダンの市庁舎、うまい米に極上の酒蔵、伊賀牛、お漬物と味噌醤油。伊賀忍者の起源は、名張中村の百地三太夫だから名張市民としては上野にお株をとられているのは悔しいなどなど、一味、コクのある人々との出会いと興味深い新発見があります。

名張市では、それぞれの団地が同時に高齢化に直面しています。自治会組織から街づくり協議会に脱皮して地域包括ケアの先進モデルに取り組んでいることもわかりました。伊賀市では、俳句の芭蕉は言うに及ばず、上野天神祭りの「だんじり」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、歴史的な観光資源を十二分に活かす戦略が息づいています。人と歴史、文化の伊賀・名張。こんな面白い、人、文化歴史、ぜひご紹介ください。駆けつけます。